

「韓国研修参加報告書」

京都大学文学研究科博士後期課程3年 木村可奈子

今回の本研修参加は、前年度までの京都エラスムス計画時の韓国社会研修を含めて3度目になる。過去2回のソウル大学での語学研修とソウル大教授陣による講義は非常に勉強になり、韓国への関心を深めるきっかけとなった。本年9月から1年間、ソウル大学奎章閣韓国学研究院への留学を決めるうえでも今までの韓国研修の経験が大きく影響した。本年の参加は、9月からの留学を前に韓国語の勉強と韓国社会に対する理解をさらに深めるため希望した。

本年のプログラム内容は前年までと基本的には同じで、毎日9時から13時まで言語教育院に通って三週間集中プログラムを受講し、午後は週に2回ほどソウル大教授陣による京大生のための特別講義を拝聴した。言語教育院の授業はレベルごとにクラス分けされており、いろいろな国からの参加者とともに韓国語を勉強した。様々な背景や韓国への関心を持つクラスメートとの交流は非常に楽しかった。授業では毎日多くの文法を学び、宿題も課される上、他の学生とのロールプレイングやプレゼンテーションを作らねばならず大変ではあるが、プログラム後には着実に能力が上がったことを実感できた。ソウル大教授陣による講義はイ・ジェヨル先生(社会学)、パク・テギョン先生(歴史学)、チョン・グンシク先生(社会学)ハン・ヨンヘ先生(社会学)、ウン・ギス先生(社会学)による講義が設けられた。社会学系の講義が多く、歴史学を専門としている私にとっては難しい話もあったが、どれも韓国社会をより深く理解できる充実した講義であった。プログラムの最後にはソウル大の学生と交流する機会も設けられ、若い世代と意見を交わすことができた。授業がない時間は各自自由に調査を行ったが、第一週目の週末には他参加者とともに、プログラムのお世話をしてくださったソウル大社会学科の院生の方のガイド下、西大門刑務所博物館、景福宮および光化門広場(朝鮮総督府跡)、日本大使館前の慰安婦像、市庁などを見学し、近現代日韓関係史の重要な地点を見て回り、理解を深めた。

今回のプログラムでは引率者がおらず、過去に参加経験があり、学年が一番上のわたしともう一人の参加者が引率者代わりとなった。参加者の半数は学部生であり、語学レベルもさまざまであったが、3週間を通して各参加者がより深く韓国を理解できるようになったことを目の当たりにでき、嬉しかった。現在日韓関係は難しい局面にあるが、各参加者にはこれからも韓国での経験をそれぞれ生かしてもらいたい。